

能狂言の秘密

高瀬物産 監査役
元近畿財務局長・東京国税局長

池 田 篤 彦

筆者の趣味の一つは、狂言の稽古です。先生は、野村万作師（人間国宝）、ご存じの方ならば、「違いがわかる男」のCMで、最近ならば野村萬斎さんの父親兼師匠として知る方も多いでしょう。当然、野村万作師、萬斎さん、裕基さん三代の舞台、あるいは、狂言だけでなく、能の公演を観る機会も多々あります。私自身も万作師の指導の下、年一回は能舞台で狂言の実演を行っています。それらについて紹介することは、別の機会に譲り、今日は観阿弥、世阿弥以来の能狂言が、650年の歴史をいかに生き抜いたか、について述べてみたいと思います。

能狂言は、歌舞伎、文楽（人形浄瑠璃）と並んで、ユネスコの無形文化遺産に2008年、日本で最も早く登録されました。世界的に見ても、650年の歴史を持つ能狂言は、発祥が古く、特に、現在においても興業として成り立ち、経済的に独立している点は、歌舞伎、文楽と並び、世界的に稀有な例となっています。言い換えると、能狂言は世阿弥以来の650年間、基本を守りながらも、時代の波を何とか乗り越え、現代社会に自立する芸能たり得ている。その生命力たるや、驚嘆に値するといってもよいでしょう。

さて、能狂言の秘密とやや大げさな表題にしましたが、650年の歴史を振り返り、驚くべき生命力の源泉の一端に触れてみたいと思います。